

メッセージの友好度と受信者のパーソナリティが返信メッセージの文字数に与える影響

○井上友莉恵・加藤和奏・#金川友美・#河合瑞月・白坂緋里・
#畑綾佳・#美藤はるみ・#三好乃愛・小野史典
(山口大学大学院教育学研究科)

目的

他者と携帯電話でメッセージのやり取りを行う際、受信メッセージの内容（文字数や友好度）に自分の返信メッセージの内容を合わせようとした経験はないだろうか？野崎・多鹿(2010)は、他者意識と受信絵文字量が送信絵文字量に及ぼす影響を調べた。その結果、受信絵文字量が少なくなることで送信絵文字量が少なくなることや他者意識が影響を与えることが示された。しかし、彼らの研究では、質問紙内での場面想定法が用いられていた。本研究では、参加者自身の携帯電話のコミュニケーションアプリを介して、メッセージの内容（友好度）が実際に返信メッセージの文字数等に影響を与える可能性を調べた。また、文字のメッセージのやり取りもコミュニケーションであることから、本研究では、コミュニケーションスキル等に関する質問への回答を求めた。

方法

実験参加者 実験用の LINE アカウントとグーグルフォームによる質問サイトの QR コードを記載した用紙を配布することで参加者を募った。回答者（全 75 名）のうち、全ての回答を行った有効回答者は 70 名であった（平均 25.3 歳, $SD=12.32$, 男性 27 名, 女性 43 名）。

手続き 参加者は、用紙に記載されている QR コードから、実験者の用意した LINE アカウントを友達登録することで、自動的に図 1 のようなメッセージが送信され、それに返信する形で回答した。その際、メッセージはフレンドリーな内容とフォーマルな内容の 2 種類が無作為な順で送信さ

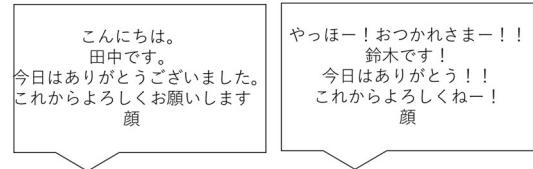


図1. 参加者が受け取るメッセージ（左：フォーマル、右：フレンドリー）

れた。その後、グーグルフォームによる質問に回答した。質問項目は、セルフモニタリング(岩淵, 1996), 自己隠蔽尺度(河野, 2008), コミュニケーションスキル(藤本・大坊, 2007)であった。

結果

返信メッセージに含まれる文字数等をカウントした結果、フレンドリーよりもフォーマルな方が文字数が多かった ($t(69) = 5.331, p < .001, d = 0.434$)。また、フレンドリーとフォーマルで絵文字数に違いは認められなかった ($t(69) = 0.351, p = .726, d = 0.037$)。加えて、フレンドリーよりもフォーマルな方が感嘆符数が少なかった ($t(69) = 3.694, p < .001, d = 0.450$) (図 2)。

考察

本研究では、携帯電話のコミュニケーションアプリを介して、メッセージの内容（友好度）と受信者のコミュニケーションスキル等が返信メッセージの文字数等に与える影響を調べた。その結果、メッセージの友好度によって返信メッセージの文字数や感嘆符数に違いが見られた。これは、丁寧な文章は相対的に文字数が多くなること、また、フレンドリーなメッセージに含まれる感嘆符の数を参加者が模倣した結果だと考えられる。加えて、受信者のコミュニケーションスキル等との関連についても分析を行った。

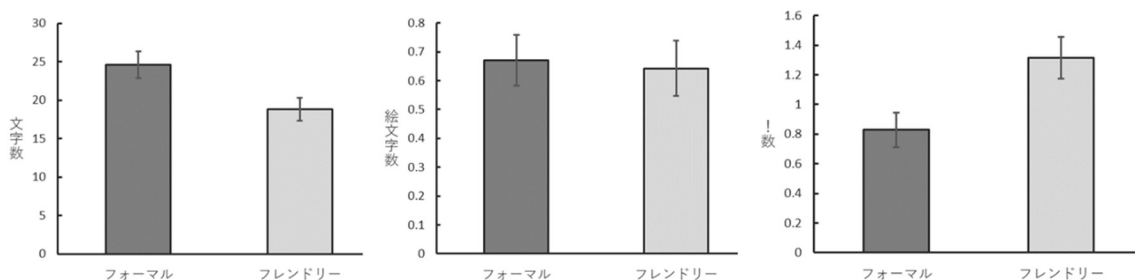


図2. 返信メッセージに含まれる文字数、絵文字数、感嘆符 (!) 数